

『学習環境』

1.1 学習環境

【基準 1.1-1】

教育研究上の目的に沿った教育を実施するための施設・設備が整備されていること。

【観点 1.1-1-1】効果的教育を行う観点から、教室の規模と数が適正であること。なお、参加型学習のための少人数教育ができる教室が確保されていることが望ましい。

【観点 1.1-1-2】実習・演習を行うための施設（実験実習室、情報処理演習室、動物実験施設、RI教育研究施設、薬用植物園など）の規模と設備が適切であること。

【観点 1.1-1-3】実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習事前学習を実施するため、適切な規模の施設（模擬薬局・模擬病室等）・設備が整備されていること。

【観点 1.1-1-4】卒業研究の内容に相応しい施設・設備が適切に整備されていること。

[現状]

本学では、学内に計26室の講義室（総面積3,611㎡/3,547名収容）を有する。大講義室（1学年270名全員収容可）、中講義室、小講義室（それぞれ4室、14室、8室）が、用途に合わせて適切に整備されている（基礎資料12（講義室等の数と面積））。SGD形式、PBL形式などの問題解決型授業においては中講義室や演習室を活用し、授業への参加意識や学習意欲の向上を図っている。「参加型学習」の代表的なものとして、2年次通年配当の「総合文化演習」が挙げられるが、1講座当たり25名程度の少人数編成による全13コースを開講するため、中講義室、小講義室を有効に活用している（添付資料：5.『神戸薬科大学シラバス2015』p.177～191）。また、11号館の2つの演習室は、多様な授業形態に対応できる多目的性に優れたITインフラを備え、SGDを行うことを想定して設計されており、「早期体験学習」をはじめとして、SGDを取り入れた授業に有効に利用されている。【観点1.1-1-1】

実習・演習の施設としては、上記の演習室も含めて、（実習室7室（1,938㎡）、ゼミナール室5室（167.5㎡）、学習室2室（114.1㎡）、学生自習室4室（457.5㎡）、コンピュータ演習室3室（440㎡）、演習室2室（704.8㎡）、動物実験室17室（1,363.6㎡）、アイソトープ実験室14室（930.4㎡））がある。これらもそれぞれの規模・設備において適切に整備されており、用途に応じた活用がなされている。また、本学は、構内に2,776㎡の敷地を占める薬用植物園を所有している。正職員2名が常駐して薬用植物の栽培・採集に従事し、薬用植物に関わる学習環境を適切に整備している。放射性同位体（RI）の利用については、放射線管理室によって厳格に管理され、安全が確保されている。また、実験室排水処理施設は公害防止や環境保護の面で重要な役割を担い、本学の教育上でも意義深い施設である。そのほかに、ききよ

う記念ホール（695 座席）を有し、入学式・卒業式などのセレモニーや、卒後研修講座・学会・講義・講演会・イベントなど、幅広い文化的交流の場として活用されている。【観点 1 1 - 1 - 2】

実務実習事前学習を実施する施設は、11 号館に整備されている。5 階に配置されている注射剤調製室には、学生用のクリーンベンチ 18 台が指導用のクリーンベンチと安全キャビネット（各 1 台）とともに設置され、準備室には 16 名が同時に手洗い可能な流し台も備えられている。試験室（230 m² / 80 名収容）には実験台と各種測定機器を備え、院内製剤の作製や TDM、輸液の調製等に関する実習を行える環境を整えている。医薬品情報室（28 名収容）に情報提供に必要な書籍や資料を備え、PC も設置している（添付資料：159. 『神戸薬科大学 11 号館パンフレット』）。6 階に配置されている調剤室（120 名収容）には散薬台、水剤台、軟膏台、麻薬金庫内蔵シャッター付き錠剤台、外用台、鑑査台等を設置している。また、散薬鑑査システムや小型散薬分包機（10 台）、自動分包機なども備え、様々な調剤実習に対応している。模擬薬局（45 名収容）にはカウンター、患者相談コーナー、OTC 販売用カウンター、カルテ戸棚などを設置するとともに、レセプトコンピューターは 6 台を導入し、保険薬局をモデルにした設備構成になっている。また、上記の演習室は可動式ベッドを複数台備え、病院のベッドサイドを模した演習が行える体制を整えている。

【観点 1 1 - 1 - 3】

また、「研究マインド」を持った人材の養成に努めている本学では、上記以外にも卒業研究を遂行するために必要な施設・設備が適切に整備されている。各研究室のテーマ及び配属状況は、基礎資料及び添付資料のとおりである（基礎資料 11（卒業研究の配属状況）、添付資料：5. 『神戸薬科大学シラバス 2015』 p. 306～308、p. 315～317、p. 337～340）。カリキュラム改訂に伴い、「卒業研究」で各研究室に 3 学年の学生が配属されるため、学生の研究スペースの狭小問題が生じている。一方、研究用機器及び設備の充実には創立以来の伝統として注力している。保有する主な共同利用機器を、以下に記載する。

レーザーマイクロダイセクションシステム（ライカ）

マルチフォトンレーザー顕微鏡（ニコン）

自動細胞捕集装置（日本ベクトンディッキンソン）

実験動物 3 D マイクロ X 線解析装置（日立アロカ）

超音波診断装置（ブレインサイエンス）

デジタルスペクトロサーベイメーター（キャンベラ）

ラドンモニタ（デジトロン）

超伝導デジタル核磁気共鳴分析装置 500 MHz（アジレント）

A P I 3000 L C / M S 質量分析計（アプライドバイオ）

円二色性分散計（日本分光）

2015（平成 27）年度予算では、耐震化工事の必要な 1、2 号館の 8 研究室を集めた新 8 号館の建設に着手する他、超伝導デジタル核磁気共鳴分析装置 600 MHz の購

入経費、各研究室の研究用機器購入費用（計 3,000 万円）を計上し、今後とも施設・設備を適切に整備していく（添付資料：160.「キャンパス整備」4か年計画）。【観点 1 1 - 1 - 4】

【基準 1 1 - 2】

適切な規模の図書室・資料閲覧室や自習室が整備され、教育研究上の目的に沿った教育研究活動に必要な図書および学習資料などが適切に整備されていること。

【観点 1 1 - 2 - 1】適切な規模の図書室・資料閲覧室が整備されていること。

【観点 1 1 - 2 - 2】教育研究上の目的に沿った教育研究活動に必要な図書および学習資料（電子ジャーナル等）などが適切に整備されていること。

【観点 1 1 - 2 - 3】適切な規模の自習室が整備されていることが望ましい。

【観点 1 1 - 2 - 4】図書室・資料閲覧室および自習室の利用時間が適切に設定されていることが望ましい。

[現状]

本学の図書館は、1号館の3、4階に位置し、閲覧スペースは728㎡、書庫スペースは396㎡、総延面積は1,291㎡である。現図書館は、1967（昭和42）年に竣工されたものであるが、その後1987（昭和62）年に45,000冊の収納が可能な集密書庫が増築され現在に至っている（基礎資料14（図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況））。蔵書数は、単行本108,956冊（和書79,390冊、洋書29,566冊）、学術雑誌551種（国内誌230種、国外誌321種）、視聴覚資料2,725点である（2015（平成27）年3月末現在）。図書の受け入れ数は、年間約1,400～1,500冊（基礎資料14（図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況））、特に、『神戸薬科大学シラバス2015』に掲載された指定参考書を揃えて学習支援に努めている。【観点1 1 - 2 - 1】、【観点1 1 - 2 - 2】

学術洋雑誌は、教員と大学院学生を対象に毎年購入希望調査を行い、その結果に基づいて図書館運営委員会で審議し、利用者のニーズに沿った適切な選定ができるよう努めている。近年積極的に電子化を進めた結果、利用可能な電子ジャーナル数は急増（現在7,731誌）し、学内LANに接続しているコンピュータからいつでも閲覧・ダウンロードが可能となっている。増え続ける電子ジャーナルや電子ブックを効率的に利用するために、リンクリゾルバ（文献データベース、電子ジャーナル、図書館システム等を相互にリンクさせ、必要な文献をスムーズに入手できるようナビゲートするシステム）の機能強化を図り、主要なデータベースの検索結果からのスムーズな文献入手などを可能にした。また、図書館の情報資源の利用促進と広報のために、ポータルサイトとしての図書館ホームページをリニューアルした。図書や雑誌の選定は図書館長の諮問機関である図書選定委員会の委員の意見を取り入れ

ながら進めており、教育研究活動に不可欠な図書及び学習資料の完備を目指している。国外学術誌については、誌代の値上がりや円安の影響を受けて、新規雑誌の購読契約が難しい状況である。そのためもあって、隣接する甲南女子大学の図書館との連携を計画している（添付資料：161. 定例教授会議事録（平成28年3月22日開催）報告事項（A）g）。【観点1 1 - 2 - 2】

図書館の座席数は、283席（閲覧席182席、視聴覚用席18席、情報端末用席13席、館外の学習自習室Ⅰ・Ⅱ70席含む）であり、図書の閲覧はもちろん、日常の自習にも活用されている。なお、自習を主目的とする施設としては、11号館の学生自習室（1111室（88席）及び1112室（170席））と情報支援室内のパブリックルーム（50席）が整備され、学生が静かに自習できる環境が整えられている（基礎資料13（学生閲覧室等の規模））。なお、2015（平成27）年度までは、8号館に旧食堂を利用した自習室（240席）が開設されていたが、2016（平成28）年1月以降はキャンパス整備に伴い使用できなくなる。これを補うために、試験シーズンに限り、5号館の4階講義室7室（計378席）を自習室として開放する予定である。このほか、1号館4階に小規模な学生自習室Ⅰ（54席）、学生自習室Ⅱ（16席）が設けられている。また、専用の自習室ではないが自習に好適なフリースペースとして、5号館3階のテラス、6号館2階のラウンジも活用されており、以上を総合すれば、十分な自習スペースが提供できている。【観点1 1 - 2 - 3】

図書館の開館時間は、平日9時～20時（長期休暇中の平日は9時～17時）、土曜日9時～16時であり、昼夜開講制大学院開講日の土曜日は、19時30分まで開館している。また、入退館管理システムを活用して、閉館時より21時30分までの無人開館を実施している。その他の自習室の開室時間は、原則として平日と土曜日の8時～20時であるが、試験期には日曜、祝日も特別に開室（8時～20時）している。将来、図書館が位置する1号館の耐震工事が予定されており、この工事の時期に合わせて学生の能動的学修を支援する場としてのラーニング・コモンズ（複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの）の設置を検討している。その一環として、2015（平成27）年4月から、現図書館の閲覧室をラーニング・コモンズとして試験的に開放し、利用状況をみながらどのようなスペースが必要とされているかを把握するよう努めている。【観点1 1 - 2 - 4】

『学習環境』

1 1 学習環境

[点検・評価]

●優れた点

【基準 1 1 - 1】

- ・本学では、学修上の用途に適した規模の異なる教室が十分に確保されている。また、参加型学習を行うための少人数教育ができる教室も十分に確保されている。
- ・実習・演習を行うための施設設備が適切に整備されており、動物実験施設、RI 教育研究施設、薬用植物園も適切に整備されている。
- ・6年制薬学教育のために建設された11号館はITインフラを備え、情報処理教育、実務実習事前教育を遂行するために必要な施設となっている。
- ・本学は、「研究マインド」を持った人材の養成に努めており、卒業研究を遂行するために必要な施設・設備が適切に整備されている。

【基準 1 1 - 2】

- ・適切な規模の図書館・資料閲覧室、自習室が整備されており、教育研究活動に必要な図書、電子ジャーナル等の学習資料も適切に整備されている。
- ・図書館、自習室の利用時間が適切に設定されている。
- ・リンクリゾルバの機能強化を図り、主要なデータベースの検索結果からのスムーズな文献入手などが可能となっている。
- ・図書館ホームページをリニューアルし、教職員、学生の図書館情報資源の利用を促進し広報を強化することを図った。

●改善を要する点

【基準 1 1 - 1】

- ・カリキュラム改訂に伴い、カリキュラム2、3では、「卒業研究」で各研究室に3学年分の卒業研究生が配属されるため、卒業研究を行うための研究スペースを検討する必要がある。

【基準 1 1 - 2】

- ・学術洋雑誌については、誌代の値上がりや円安の影響を受けて、新たに希望された雑誌の購読が難しい状況である。研究動向の変化にも対応できるよう、購読方法の見直しが必要である。
- ・現在のラーニング・コモンズは既存のスペースを転用したもので、試験期にはサイレントゾーンに切り替える必要がある試行的なものである。今後利用状況を検証しつつ、既存のラーニング・コモンズがより機能的に、より恒常的に利用できるよう検討する必要がある。

[改善計画]

【基準 11-1】

- ・ 現有の研究スペースの利活用について検討するとともに、キャンパス整備計画の中でスペースの確保を検討する。

【基準 11-2】

- ・ 学術洋雑誌の購読方法の一つとして Pay Per View（1論文毎の購入）の利用を開始している。今後も本学の電子ジャーナルの利用状況を調査しながら、少しでも効率的な雑誌購読ができるように Pay Per View 利用の拡大を検討していく。
- ・ ラーニング・コモンズについては、PCの増設など設備の充実による効果を検討する。また、現在の利用者が一部の学年に片寄っているため、全学年に利用が浸透するよう広報に努め、その有効性を検証する。